

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-247401
(P2000-247401A)

(43)公開日 平成12年9月12日(2000.9.12)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード*(参考)
B 6 5 F	1/06	B 6 5 F	1/06 A 3 E 0 2 3
	1/12		1/12 1 0 3
	1/14		1/14 Z
	1/16		1/16

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平11-48047

(22)出願日 平成11年2月25日(1999.2.25)

(71)出願人 592039015

株式会社パイオテックリサーチ
東京都港区白金6-14-28

(72)発明者 石井 直彦

東京都港区白金6-14-28 株式会社パイ
オテックリサーチ内

(74)代理人 100081558

弁理士 斎藤 晴男

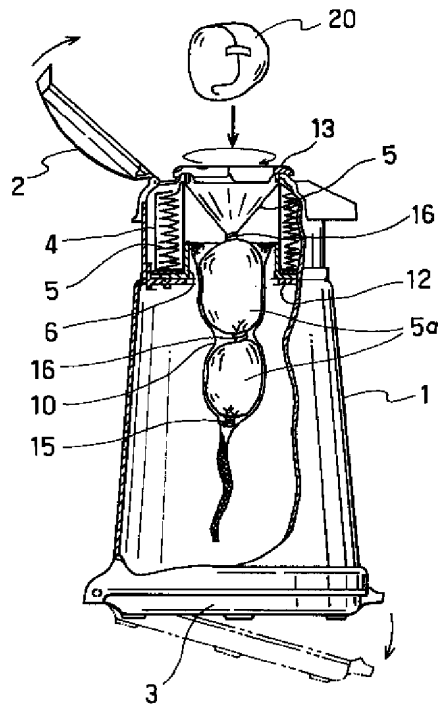
Fターム(参考) 3E023 GA01 GB06 GC05 GD01 GD02
JA01 MA04 MB10

(54)【発明の名称】 使用済み紙おむつ等貯留容器

(57)【要約】

【課題】 一旦振った袋の振り状態がそのまま保持されて、各使用済み紙おむつ収納部分が袋内において確実に密封状態にて隔離され、以て新たに使用済み紙おむつを袋内に収納する際に、前に収納した使用済み紙おむつ等の異臭が漏出して室内に漂うといったことが防止される、使用済み紙おむつ等貯留容器を提供することを課題とする。

【解決手段】 上面及び下部に開閉部2、3を有していて、上部に筒状フィルム5を繰り出すフィルムカセット4を交換可能且つ回転可能に装填した容体1を設け、前記容体1における前記フィルムカセット載置用カセット受け6に、両端部を開口した筒状の伸縮素材製反転防止ネット10を取り付ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 上面及び下部に開閉部を有して、上部に筒状フィルムを繰り出すフィルムカセットを交換可能且つ回転可能に装填した容体を設け、前記容体における前記フィルムカセット載置用カセット受けに、両端部を開口した筒状の伸縮素材製反転防止ネットを取り付けて成る使用済み紙おむつ等貯留容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は使用済み紙おむつ等貯留容器、より詳細には、使用済みの紙おむつやベットの糞、生ゴミ等の悪臭を放つ廃棄物等を、ゴミ収集所に出す前に一時家庭内において貯留しておくための貯留容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近時紙おむつは、乳児用としてだけでなく、大人用としても広く利用されてきている。この紙おむつは1日に数回交換するので、使用済み紙おむつは、生ゴミとしてゴミ収集所に出すまでに多数貯まり、それを家庭内に一時置いておかねばならない。

【0003】従来この使用済み紙おむつの一時貯留用容器として、ポット状の容器内において、連続する袋内に使用済み紙おむつを次々と押し入れ、その押し入れに際して前に入れた紙おむつの臭いが出てこないように当該袋を振って、当該袋の各紙おむつ収納部を気密状態に隔離させるといったものが提唱されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上記従来の貯留容器は、使用済み紙おむつを一連の袋内に押し入れる度に袋を振ることにより、各紙おむつ収納部を隔離せんとするものであるが、それは一旦振った袋をその状態に維持しておくための構成が不完全なために、先送りされた部分の振り状態が解消されてしまい、各紙おむつ収納部分を完全に隔離しておくことができなくなる。

【0005】そこで本発明は、一旦振った袋の振り状態がそのまま保持されて、各使用済み紙おむつ収納部分が袋内において確実に密封状態にて隔離され、以て新たに使用済み紙おむつ等を袋内に収納する際に、前に収納した使用済み紙おむつ等の異臭が漏出して室内に漂うといったことが防止される、使用済み紙おむつ等貯留容器を提供することを課題とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、上面及び下部に開閉部を有して、上部に筒状フィルムを繰り出すフィルムカセットを交換可能且つ回転可能に装填した容体を設け、前記容体における前記フィルムカセット載置用カセット受けに、両端部を開口した筒状の伸縮素材製反転防止ネットを取り付けて成る使用済み紙おむつ等貯留容器、を以て上記課題を解決した。

【0007】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態を添付図面に依拠して説明する。図1は本発明に係る貯留容器の一部切截図で、図中1はプラスチック製、金属製等の容体で、上面に開閉蓋2を有し、また、開閉可能な底面3を有する。

【0008】容体1の上部には、円筒状のフィルムカセット4が上面から装脱可能に装填される。フィルムカセット4は、内外二重円筒状のケースの内外筒間に、後に袋を形成するための、一連の合成樹脂製筒状フィルム5を畳んで収納して成る（図1、図3参照）。筒状フィルム5は、フィルムカセット4から上方に引出し可能とされる。

【0009】6はフィルムカセット4を載せるためのカセット受けで、フィルムカセット4内に嵌入する支持筒7と、支持筒7の下端に延設されていてフィルムカセット4の底面を受けるフランジ8とから成る。フランジ8には、必要に応じ、フィルムカセット4の後記回転動作に際し、そのスムーズな回転を可能にするための円環板9が載置される（図2参照）。

【0010】カセット受け6には、伸縮性素材（例えば、伸縮製包帯やミカン等収納ネットの如きもの）製の袋状反転防止ネット10が被装される。反転防止ネット10は両端が開口されていて、その一端を下方から支持筒7内に挿通し、拡開して翻転することによって支持筒7に被装し、端部を適宜手段で支持筒7又はフランジ8に固定する。その固定手段として最も簡単なのは、支持筒7又はフランジ8（好ましくは、図2に示すようにフランジ8の裏面）に適宜突部11を設け、そこに反転防止ネット10を引掛ける方法である。その他の手段としては、溶着又は接着、円環板9による押止等が考えられる。反転防止ネット10の長さは、例えば、未収納時においてはその下端が容体1の底面3から離れていて、収納時に底面3に届く程度とする。

【0011】カセット受け6は、容体1内の上部に設置された受台12上に載せられる。受台12は、中央部に反転防止ネット10の挿通孔を有し、また、突部11をフランジ8の裏面に設けた場合には、その逃げ穴を有する。

【0012】本発明に係る貯留容器は、上記構成の外に回転リング13とリングカッター14とを含む。この回転リング13とリングカッター14は別体とする場合と、リングカッター14を回転リング13内において回転可能な状態にして両者を一体化する場合とがある。

【0013】図4は回転リング13とリングカッター14とを別体とした場合を示しており、この場合は、容体1に装填したフィルムカセット4から筒状フィルム5を引き出し、その内側に回転リング13を挿入し、回転リング13をフィルムカセット4の内筒内に嵌合する（図4（A））。そして、更に筒状フィルム5を引張り上げ、端部を結んで結びめ15を作り（図4（B））、そ

の結びめ15を容体1内に押し込んで、回転リング13を筒状フィルム5で包み込んだ状態にして(図4(C))、蓋2をする。

【0014】かくして準備完了となり、使用に当っては開閉蓋2を開け、丸めた使用済み紙おむつ20を、筒状フィルム5内の適当な所(例えば拳1個分位の深さ)まで押し入れる。その位置は、紙おむつ20が反転防止ネット10内に収まる位置でなければならない。そして、筒状フィルム5の上から回転リング13を押さえて回転させると、フィルムカセット4が共に回転するが、紙おむつ20(紙おむつ20に接している筒状フィルム5)は反転防止ネット10内において押さえ止められるために回転しない。その結果、当該紙おむつ20の上側に筒状フィルムの振り部分16ができ、以て筒状フィルム5の紙おむつ収納部分5aが密閉される(図1参照)。

【0015】上記動作を反覆していくと、その都度振り部分16に挟まれた紙おむつ収納部分5aが作られ、これがつながっていくが、少なくとも2~3の紙おむつ収納部分5aは反転防止ネット10内にあって、その反転を阻止されるため、振り部分16が解消されることはなく、各紙おむつ収納部分5aはそれぞれ密閉状態にて隔離される。

【0016】なお、反転防止ネット10はフレキシブルで自由に変形するので、各紙おむつ収納部分5aは、1個所に集まることなく容体1内の空隙部に自由に移動して収まり、容体1内の収納スペースに無駄が生じない。

【0017】容体1内が紙おむつ収納部分5aで満杯になったら、筒状フィルム5の上面開口部内にリングカッター14を嵌め入れ、回転リング13部分を押さえてリングカッター14を回転させて筒状フィルム5をカットする。そして、底面3を開け、連なった紙おむつ収納部分5aを引張って反転防止ネット10から抜き出し、端部同志を結んで廃棄する。以後上記操作を反復する。

【0018】回転リング13とリングカッター14とが一体の場合は、筒状フィルム5回転時には回転リング13を押さえて回転させ、また、筒状フィルム5のカット時には、回転リング13を押さえてリングカッター14

の方を回転させる。

【0019】

【発明の効果】本発明は上述した通りであって、一旦振って密閉隔離した紙おむつ等の収納部分が反転防止ネットによって確実に反転を阻止されるので、その密閉隔離状態が保持される。従って、本発明に係る貯留容器は室内に置いておいても、使用済み紙おむつ、ペットの糞等の多量貯留時並びに収納操作時に悪臭が漏出する虞がなく、取扱いも容易であって、介護老人等を抱える家庭や施設、室内でペットを飼う家庭等において用いるのに好適なる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る貯留容器の一部切截側面図である。

【図2】 本発明に係る貯留容器における反転防止ネットを示す図である。

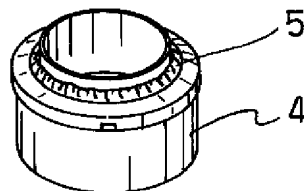
【図3】 本発明に係る貯留容器におけるフィルムカセットを示す図である。

【図4】 本発明に係る貯留容器の操作方法を示す図である。

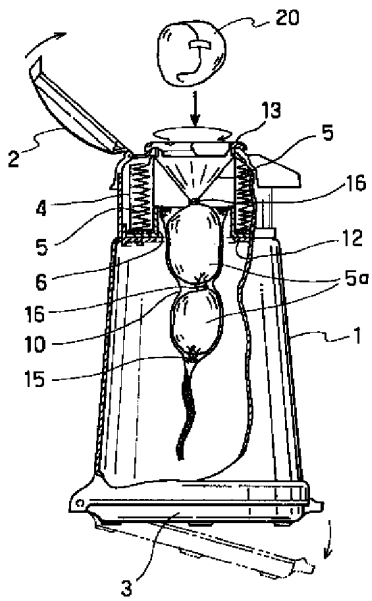
【符号の説明】

- 1 容体
- 2 蓋
- 3 底面
- 4 フィルムカセット
- 5 筒状フィルム
- 6 カセット受け
- 7 支持筒
- 8 フランジ
- 9 円環板
- 10 反転防止ネット
- 11 突部
- 12 受台
- 13 回転リング
- 14 リングカッター
- 15 結びめ
- 5a 紙おむつ収納部分

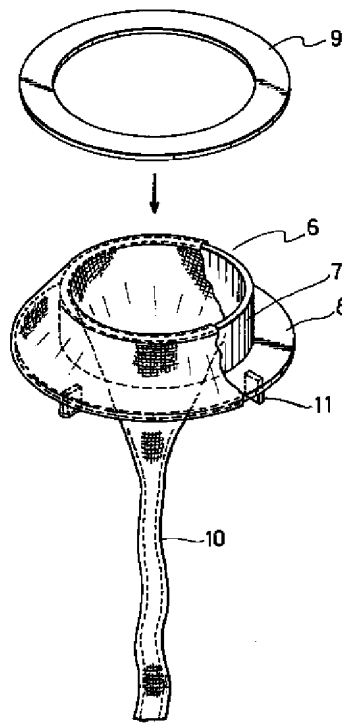
【図3】



【図1】



【図2】



【図4】

